

## 『家族を笑顔に』

玉之浦中学校 三年 金丸未来

「めっちゃ、きれか〜っ」夕暮れ時、二階の教室の窓の外に広がるコバルトブルーの海に紅に輝く太陽、私は一瞬で、その風景に心を奪われた。しばらくの間、私は茜色に染まりながら、その景色に魅了され動けなかった。

ここでは、自然の美しさが身近に感じられる。ときどきする。

今年三月、私は北九州から五島に引っ越してきた。中学三年生になった私は現在、祖父の家に、父と母と私と祖父の四人で暮らしている。ここでの生活は、私の心をくすぐり、胸が弾む事ばかりだ。

一年前、突然両親から「未来、五島に引っ越そう。」と言われた。五島に住む祖父が入退院を繰り返して、両親が祖父の一人暮らしに不安を感じるようになったからだ。「えっ」私はすぐに返事ができなかった。なぜなら、今まで住み慣れた場所、今まで築いてきた友達との繋がりが無くなってしまう…そう思うと怖くなったからだ。

私は十年前に、こんな出来事があったことをふと思い出した。当時、姉が中学校での人間関係に苦しみ、だんだんと笑顔が消えていったのだ。そんな姉を家族はとても心配し、姉が安心して過ごせる場所をさがしていた。その時、母の故郷である五島に行くことを両親が進めた。姉はきっと「今を変えたい、そんな思いで五島へ行く決心をしたのだろう。五島で中学校生活を送り始めた姉は、再会するたびに表情に輝きが増していった。今までとは別人になっていったのだ。姉に笑顔が戻るとともに、家族にも笑顔が増えていった。

私の家族は一緒に笑い、涙し、励まし合う。私はそんな家族が大好きだ。五島に住む祖父も大事な家族。私も祖父を元気づけたい。寄り添いたい。姉を励まし、笑顔にした五島なら、私もきっと姉のように笑顔で暮らせる。そんな思いから、「五島へ行こう」と決心がついた。

二〇二二年四月、五島の中学校になじめるか、友達が出来るか…と不安を抱えながら、新学期を迎えた。学校が始まると、同級生が笑顔で迎えてくれた。学校へ行きたくてたまらない自分がそこにいた。私が通っている学校は、小中併設校だ。かわいい小学生と昼休みに一緒に遊ぶ機会もある。小学生に頼まれ「おにごっこ」をする。末っ子だった私は、下の子供の面倒をみることに、自分が我慢すること、譲ることなど多くのことをここで体験した。新鮮な経験だった。中学校では、バトミントン部に所属し、妹のような後輩ができた。「お姉ちゃん」と慕ってくれる後輩を見ていると、姉を思い出した。私には姉が二人いる。今まで私のわがままで、姉たちにどれだけ甘え、我慢をさせてきたのだろう…そう考えると離れて暮らす姉たちがとても恋しくなった。「会いたい。」今まで抱いたことのない感情に戸惑いつつも、心が優しい気持ちで満たされた。

中総体激励式では、小学生が精一杯声を出し「皆な応援しているよ。頑張ってきて。」という言葉や姿に、胸が熱くなり、涙が溢れてきた。遠足、田植え…五島へ来て、沢山のひとと出会い、今まで出来なかった体験をし、心で感じるが増えた。家族が素敵なきっかけを作ってくれたから、いろいろな体験ができ、今の私がいる。どんなときでも第一に家族の事を考え行動できる両親。そんな両親に、私は沢山の愛情を注いでもらっている。だ

から、普段言えない感謝の気持ちを伝えたい。「お父さんお母さん、ありがとう。」私はこの五島で、祖父を支える母の姿から、将来、看護師になりたいという夢を見つけた。この夢を叶えるために、日々の生活に感謝の気持ちを持ち、勉強や行事に一生懸命に取り組み、そして、今度は私が家族をもっと笑顔に元気にしていきたい。